

令和6年伊豆市議会12月定例会一般質問者と質問事項

12月4日（水）午前9時30分～

発言 順序	議席番号、氏名	質 問 事 項	答 弁 を 求 め る 者	ページ
1	4. 小川 多美子	1 増え続ける耕作放棄地について	市 長	2
		2 子宮頸がんワクチンについて		3
2	3. 浅田 藤二	持続可能な伊豆市とは	市 長 教育長	4
3	14. 木村 建一	1 少子緊急対策の充実と位置付けた「子育て全力宣言」について	市 長 教育長	6
		2 衆議院選挙における公正な選挙のための課題について	市 長 選管委員長	7
4	11. 三田 忠男	1 先の伊豆市議会議員選挙についての所感を問う	市 長 選管委員長	8
		2 未来志向の伊豆市の福祉環境整備を図りませんか	市 長	
5	5. 黒須 淳美	伊豆中学校の運営方針と、実践される教育の将来像は	教育長	9

12月5日（木）午前9時30分～

発言 順序	議席番号、氏名	質 問 事 項	答 弁 を 求 め る 者	ページ
6	9. 間野 みどり	1 伊豆市における老々介護の実態と対策について	市 長	11
		2 伊豆市の三番叟や祭りなどの文化を大切にする方法は	市 長 教育長	12
7	10. 青木 靖	1 高校生の通学補助に工夫を	市 長	13
		2 県道伊東修善寺線の維持管理のあり方		14
		3 猛暑の草刈りを支援する制度を		
		4 わさび沢のモノレールを市が関与して計画的に整備を		15
		5 市職員の定着率		
		6 今後の経常経費支払いの資金繰り		
8	12. 小長谷 順二	1 合併特例債の活用状況と新たな財源について	市 長	16
		2 伊豆半島広域の観光・防災の連携について		17
9	2. 飯田 大	市内給食センター再編に伴う学校給食施策について	市 長 教育長	18
10	8. 波多野 靖明	1 大学生の通学補助について	市 長	20
		2 伊豆市における環境配慮型リフォーム助成事業の導入について		

12月6日（金）午前9時30分～

発言 順序	議席番号、氏名	質 問 事 項	答 弁 を 求 め る 者	ページ
11	1. 尾垣 和則	聴覚補助器等の積極的な活用への支援について	市 長	22
12	13. 森 良雄	1 戸籍に関するシステムの電算センターへ移管について	市 長	24
		2 狩野川の水質について		
		3 トレイルランニングレースについて		25
		4 伊豆中学校の自転車通学路の整備について	市 長 教育長	26
		5 道路整備の補修計画について	市 長	



議長許可

発言通告書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和6年11月15日

伊豆市議会議長 様

議席番号 4 議員名 小川 多美子

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (一括 ・ 分割) ※発言予定時間 (20 分 ・ 30 分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
1. 増え続ける耕作 放棄地について	黄金色をしていた田圃もすでに刈り取りが終わり、すっかり冬景色に変わっています。刈り取りが終わっている田圃の近くには、たくさんのススキの穂が風になびき、背の高い黄色の花はセイタカアワダチソウ、別名ブタクサといわれ、アレルギーを引き起こす植物です。葛葉藤もあちらこちらに蔓を伸ばし、木々や農地を覆っていました。 前回の選挙から4年間、選挙カーから見た景色に歳月を感じました。このままの状態が続くと市内至るところが荒廃地となり、観光地伊豆として寂れてしまうのではないかと気になります。 次のことを伺います。 ① 市では耕作放棄地についてどれだけ把握し、どのように考えているのでしょうか。 ② 現在、企業で農地を借りて野菜作りをしているところがありますが、他にもそのような大規模農業の誘致事業はありませんか。 ③ 荒廃地に花木を、或いはレンゲや秋桜、コキアなど、比較的手の掛からない植物を植えるなど考えませんか。 ④ 奨励作物の支援事業をしているとの話を伺ったことがあります。それらは現在どのような状況でしょうか。	市 長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
2. 子宮頸がんワクチンについて	インフルエンザやコロナ、子宮頸がん、帯状疱疹、肺炎球菌など、いろいろな病気予防に対するワクチンがあります。その中の子宮頸がんについて、毎年1万人以上の女性が発症し、3千人以上が亡くなっているそうです。子宮頸がんになると、放射線等の影響で、治療のために子宮を摘出する場合もあるようです。 子宮頸がんのほとんどは、ヒトパピローマウイルス(HPV)への感染によるものだといわれています。市では、このウイルス感染を予防するためのワクチンの定期接種を行っています。ワクチンの予防効果を得るには、3回の接種が必要とのことですが、国が安全確認のための接種の積極的勧奨の差し控えをした時期があるようです。 これらを踏まえて、次のことを伺います。 ① 子宮頸がんは若年層に発症率が高いとのことですが、年齢的には何歳くらいの女性が多く発症していますか。 ② ワクチンは3回接種が必要とのことですが、対象年齢は何歳くらいで、いつ頃どのように3回接種したらよいのでしょうか。費用は有料ですか、無料ですか。 ③ 接種の積極的勧奨の差し控えをした時期があるとは、どういうことでしょうか。何年くらいのロス期間があり、その間の対象者にはどのようにしていますか。 ④ 対象年齢、或いはキャッチアップといわれている年齢に受けそびれてしまった、若しくは3回接種することができなかった場合は、どのようにしたらよいのでしょうか。 ⑤ 副作用はありますか。また、ワクチンを受けてもがんになる確率はどれくらいありますか。 ⑥ 子宮頸がんと子宮体がんの違いは何ですか。 以上、伺います。	市 長



議長許可

発言通告書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 6年11月14日

伊豆市議会議長 様

議席番号 3 議員名 浅田 藤二

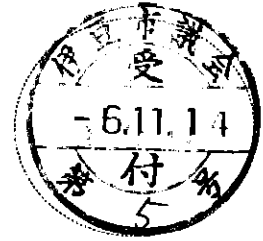
No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (一括 ・ 分割) ※発言予定時間 (20 分 ・ 30 分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
持続可能な伊豆市 とは	「田舎の小さなことにも目を向けてね。」市民のみなさまからたくさんのご意見をうかがう中で一人暮らしのご老人からいただいた忘れられない言葉です。 伊豆市に住む誰もが、「あー、ここに住んでよかったな、幸せだな」といっていただくために何が私たちにできるのか。そして、市民の多くが誇りにしている素晴らしい自然環境を次世代に繋ぎ、持続可能な伊豆市とするため、経済、教育の面からみなさんと一緒に考えてみたいと思います。 そして、ここでの議論が実際の政策として、目に見える形で実現されること、行政、民間が行動に移すことを強く願っています。 伊豆市には、先祖や大先輩たちがつくりあげてきた歴史や豊かな自然、助け合おう、支えあおうとする、あたたかな人々との暮らしといった宝があります。効率性や経済性を優先するあまり、文化的な魅力や地域独特の個性をなくし、その結果経済性も失いかねないのではないのでしょうか。 私たちは、先行きのわからない、答えのない時代に生きているからこそ、人のぬくもりや懐かしさ、ほっとする、そういう手づくりのものに価値を感じるのではないのでしょうか。宝物は必ずある。私たちの足元にきっとその宝ものはあります。でも自分の足元にあるものは、当たり前すぎてその価値に気づきにくい。田舎に暮らす豊かさに多くのみなさまに目覚めていただくのが私たちの役割だと思って	市長 教育長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	います。 地域づくりとか地域活性化の出発点は、いつも誰かの「こんなことがしたい」という夢の実現。その一人の夢をみんなが応援することで一人一人が輝いて、その町が光っていくのではないのでしょうか。今、私たちは、こんなことを考えています。こんな暮らしをしていると、しっかり表現していくことが大切で、伊豆市で何かを学び、伊豆市で何かをつくり、伊豆市に足跡を残す生き方を進めていきたいと考えます。 移住政策が活発に行われていますが、若い人たちは、単に収入だけではなく、稼ぐこと以上に自分にとって有意義なことを求めて地方に移住してきます。だからこそ、ここに住む私たちが輝いていないといけないと思っています。 質問します。 ① 今年の夏、米不足となり伊豆市でもスーパーなどに商品がない時期がありました。農協にも在庫がないという回答をその時にいただきました。 持続可能という点から、今年おきた米不足について伊豆市や全国の中山間地域で増えている荒廃農地の現状とを考えて、どのようにとらえていますか。 ② 何回か、伊豆市の豊富な水や木材を利用した水力発電やバイオマス発電の提案をさせていただきました。 回答は河川法などの規制やコストの面があって実現は難しいとのことでした。日本のエネルギー自給率は2021年の調査で13.3%。伊豆市単独では何パーセントでしょうか。また、その数値に対して持続可能な伊豆市とするためどのようなお考えをお持ちでしょうか。 ③ 持続可能な伊豆市の担い手を育む教育について、伊豆中学校ではどのような教育を考えていますか。	



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 6 年 11 月 14 日

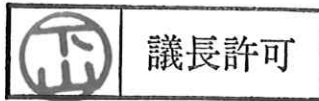
伊豆市議会議長 様

議席番号 14 議員名 木村 建一

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問(一括 ・ 分割) ※発言予定時間 (20 分 ・ 30 分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
1. 少子緊急対策の 充実と位置付けた 「子育て全力宣言」 について	① 結婚から子育てまで切れ目ない支援を掲げていますが、子育て全力宣言の年齢は何歳までですか。 ② 新規・拡充事業、伊豆っ子未来応援金について中学校にはありません。応援金はなぜ小学校だけですか。 ③ 子育て全力宣言の新規事業として高校生への入学応援金、伊豆箱根鉄道通学定期代の補助をしませんか。 ④ 市民の婚活を応援する「1年成婚サポート事業」はどうなっていますか。この事業による伊豆市の展望はいかがですか。 ⑤ 新中学校の生徒数は、現修善寺中学校と比較して約1.5倍。天城中学校、中伊豆中学校の約4倍になります。多くの生徒と交流できる環境と同時に誰一人取りこぼさない教育が求められます。生徒、保護者、市民そして他の自治体からも注目される学校づくりは、子育て全力宣言につながると思います。教育長の見解を求めます。 ⑥ 国立社会保障・人口問題研究所の将来推計人口によると、2020年を100としたとき伊豆市の2050年の人口指数は、人口減少率49.5で静岡県内35市町中、下位から5番目です。 現状の対策で、2050年の人口が県下中程度になるでしょうか。市長の見解を求めます。	市長 教育長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
2. 衆議院選挙における公正な選挙のための課題について	本年 10 月 27 日に執行された「第 50 回衆議院選挙」の伊豆市の投票所で、特定の候補者への投票行動を促すような、選挙公報の配置があり、公正な選挙の執行を脅かす恐れのある状況にあったことが、市民からの通報により明らかになりました。 以下おたずねします。 ① 本事案の現場の状況について、時系列も含めて詳細な説明を求めます。 ② 通報を受けた選挙管理委員会はどうに対応しましたか。現場確認、是正状況、他の投票所の点検など。 ③ 投票所における時間帯別の投票者数。 ④ 選挙管理委員長は、いつ報告を受けこの事態をどのように受け止めましたか。また、公正な選挙は執行されたと考えますか。 ⑤ 選挙管理委員会は、この事案が起こった原因をどのように分析し、再発防止をどのようにされるのかうかがいます。 ⑥ 市長は、この一連の報告をいつ、誰から受けたのか。また、こうした事態をどのように受け止めましたか。 ⑦ 近年の選挙事務において、投票時間の延長、期日前投票所の設置など投票事務管理上の負担、投票立会人や事務従事者の不足などが問題となっていますが、伊豆市選挙管理委員会としての課題、問題点を伺います。	市長 選挙管理委員長



発言通告書



下記のとおり発言したいので通告します。

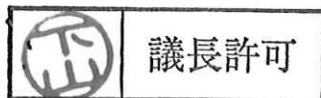
令和6年11月15日

伊豆市議会議長 下山 祥二 様

議席番号 11 議員名 三田 忠男

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (一括・分割) ※発言予定時間 (20分・30分) ②質疑 ③討論 (反対・賛成) ④その他 ()	
発言の要旨		答弁を求める者
件名	内容	
1. 先の伊豆市議会議員選挙についての所感を問う	① 投票率が 56.15%と減少したことに対する所感を伺いたい。 ② 要因分析と今後の投票率向上への対応を伺いたい。 ③ 移動投票所等、高齢社会に応じた、身近な場所で投票行為ができる環境整備が求められましたが所感を伺いたい。 ④ 期日前投票制度の認知により、選挙日より多くの方が投票した結果、土肥地区同様選挙日の投票時間の短縮を図ることが出来ると思いましたが所感を伺いたい。 ⑤ 選挙中の市民からの要望は、雇用の創設、教育環境の整備、道路網の改善、福祉医療の充実、行政組織の市民に寄り添う姿勢等、身近な生活環境の改善を希望されていたが、市長の所感を伺いたい。	市長 選挙管理委員会委員長
2. 未来志向の伊豆市の福祉環境整備を図りませんか	世帯構成の変化に応じた、施策の対応が求められますが親亡き後の単身障がい者や単身高齢者等支援を必要としている市民の、住み慣れた伊豆市で安心して安全に暮らし続ける施策は整っているのか、更に整備したい施策等はあるのか伺いたい。	市長



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 6 年 11 月 15 日

伊豆市議会議長 様

議席番号 5 議員名 黒須 淳美

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (一括) 分割) ※発言予定時間 (20 分) 30 分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
伊豆中学校の運営 方針と、実践される 教育の将来像は	令和 4 年 1 月に始まった新中学校の造成工事から、いよいよ本年 12 月にはその校舎の建築工事も完了し、来年 4 月には開校式を迎える計画となっています。 伊豆市の将来を見据えての市内 3 中学校統合による新しい中学校の誕生は、市民の期待と共にその運営にも大きな関心が集まっているところです。 これから始まる学校では、きっと新しい仲間と授業も休み時間も楽しく、そして安心して過ごせる学校生活が待っているだろうとの期待と、広域からの通学や部活動の取り組みについての少なからぬ不安もあり、その運営についてはさらなる説明や周知が必要と考えます。 また開かれた学校として地域との連携も求められ、学校運営協議会の活用や、ひとつの例として、生徒が地域の伝統行事、防災訓練などへ参加することで継続的なつながりを築いていくことも、重要な取り組みと考えられます。 今現在、開校に向けての準備も大詰めの段階と思われますが、その一方で実際に始まってからの動き方によっては、柔軟に対応していかなければならないこともあるかと推測されます。 そこで、伊豆中学校の運営についてどのような考え方で進められてきたか、また今後の運用についての展望、将来像などについて以下質問いたします。	教育長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	① 徒歩や自転車、バスの利用など、通学の在り方についての検討はどのようにされてきましたか。また、広域からの通学についての課題とその対応をどのように考えていますか。 ② 部活動について、下校時刻を午後 4 時半としたことでその影響をどのように捉えていますか。また多様な選択肢確保のためにも地域との連携やクラブチームなどとの関わりも増えてくると思いますが、その現状はいかがですか。 ③ キャリア教育や地域をテーマとした探究学習などへの地域人材の活用についてどのように考えますか。 ④ 土肥小中一貫校との授業や交流活動などの具体的な内容とその期待される効果はどのように考えますか。 ⑤ グローバル化への対応としての英語力向上についての取り組みはありますか	



議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和6年11月12日

伊豆市議会議長 様

議席番号 9 議員名 間野 みどり

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問(一括・分割) ※発言予定時間(20分・30分) ②質疑 ③討論(反対・賛成) ④その他()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
1. 伊豆市における 老々介護の実態と 対策について	10月20日の選挙にあたり、ここ数か月、親しい友人や市民の方と今まで以上に交流しました。 そこで、私たち年代(65歳以上)の方々とお会いすることで、いろいろな今の市の状況や市民の声を聞くことができました。 その中で、老々介護のことで悩んでいる方が多いことを聞きました。 老々介護とは、高齢者が高齢者を介護する状態を指します。また、75歳以上は、『超老々介護』というそうです。2022年の調査(国民生活基礎調査)では、65歳以上の要介護高齢者がいる世帯の63.5%が主介護者も65歳以上であることを示しています。 また、問題点も ・介護者の体力的、精神的負担が大きい ・介護放棄、虐待につながってしまう ・経済的負担が多い などです。 自分たちも少しずつ老いていくことを実感しつつ、これから、市民の中にも同じような悩みをもつ市民が多くなっていくと思います。 そこで少しでも市民の負担を和らげ、良い方向を見出すために、次の質問をします。	市長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
2. 伊豆市の三番叟や祭りなどの文化を大切にする方法は	① 今、市の中で老々介護と見られる数など把握していますか。 ② 老々介護の悩みなどの相談は、どんな所でどのように受けていますか。 ③ 今後、どのような対策が必要と考えますか。 次の問題も、上記と同じように市民の悩みの多さに驚きました。 去年の 11 月、ちょうど一年前、私が一般質問しました文化の継承では、小中学校の教材として市内も祭りや文化の DVD の放映をしてくれたり、市役所・図書館などで放映してくれたりしている努力はわかりました。 しかし、その後、一年間のうちにますます心配なことが多くなっていると感じています。 その原因は、人口減少・少子化・担い手不足・やる気の減少など様々です。 一年前も地域のまちづくりに託すなど、案はいろいろでしたが、ここ一年で、そんな流暢なことをいってられないように思われます。 行政として、本気で守る手だてを考える時期に来ていると思います。 そこで質問します。 ① ここ一年間で取りやめた祭りなどの文化行事など、状況や情報をつかめていますか。 ② 市も文化継承のプロジェクトチームをつくり、本気で地域の文化を守る体制を考えるということはありませんか。	市長 教育長



議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和6年11月15日

伊豆市議会議長 下山 祥二 様

議席番号 10 議員名 青木 靖

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (一括 ・ 分割) ※発言予定時間 (20 分 ・ 30 分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
1. 高校生の通学補助に工夫を	伊豆市では「高校生のバス通学補助事業」があります。これは、高等学校等にバスを利用して通学する生徒の保護者の負担軽減と路線バスの利用促進を目的に、通学にバスを利用する高校生の通学定期券購入費用を補助するもので、通学定期券の購入費用から片道 230 円の通学定期代相当額を差し引いた額の 3 分の 2 が補助額となっています。バス代が相対的に値上がりしており、高校生を持つ保護者の負担軽減という意味では有意義な制度だと考えますが、利用するバス停のバスの本数や時刻設定によっては、実質的に補助の対象外になっているケースもあります。 ① そもそも路線バスの本数が少なく、通学に適した時刻にバスがない方、路線バスを利用すると部活動の朝練習などに間に合わない方に対しては、通学電車代を補助出来るように制度を見直しませんか。 ② 旧田方郡時代も鉄道から遠い地域では以前から、お子さんの高校入学を機に、一家揃って三島周辺に引っ越してしまう事例はありました。伊豆市に住み続けて、鉄道駅から遠い地域から三島方面に通う高校生については、条件つきでもよいのでバス代・電車代、両方を補助できる制度を考えませんか。	市 長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
2. 県道伊東修善寺線の維持管理のあり方	県道 12 号伊東修善寺線は、伊東市東松原町から伊豆市修善寺に至る主要地方道です。伊豆・伊豆の国や伊東・東伊豆の地域住民の生活道路であり、物資の輸送道路として、救急搬送道路として、そして観光道路として、重要な道路です。伊豆市にあっては、国道 136 号、414 号と合わせて主要な幹線道路で、一日の交通量は 16,000 台とも 20,000 台ともいわれています。 もちろん、県道の管理責任者は県ですが、伊豆市の重要な道路の維持管理について、市は県土木事務所との関係の中で、どのように関与しているのか伺います。 ① 県道伊東修善寺線は、路面の舗装の傷みが激しい個所が目立ち、自転車や二輪車は安全に走行できないレベルで、自動車でも走行しても震度が激しく危険を感じる個所が放置されている現状です。市として、県土木事務所側と特に路面の傷みの激しい個所について優先順位をつけて改修するための連絡協議などを行っていますか。 ② 区長から緊急要望で道路に穴があいているような個所の要望があがった際も、対応は県が発注すると思いますが、国県道の維持管理における市と県の役割分担を確認します。	市 長
3. 猛暑の草刈りを支援する制度を	伊豆市だけの問題ではありませんが、中心市街地から離れた地域は、年々、草に覆われる面積が広がっていると感じませんか。 ① 農地のみならず、今年のような猛暑の中で、草刈りをするのは危険を伴います。ボランティア団体も高齢化しています。自走式草刈機の購入補助等、草に負けないようにするための制度を作りませんか。 ② 幹線道路沿いなど、景観に配慮した農地の草刈りを支援する制度を作りませんか。	市 長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
4. わさび沢のモノレールを市が関与して計画的に整備を	伊豆市はいうまでもなく、質量共に日本一のわさびの生産地です。わさび栽培の現場は、湧水を利用して斜面を有効活用し収量を最大にするため通路がほとんどないわさび沢が多いのが一つの特徴です。そこで、収穫などの際に欠かせないのがモノレールです。わさび沢にあってはモノレールの軌道は道路と同じです。 わさび生産に欠かせないモノレールですから、計画的に維持管理していくことが、繁忙期に出荷量を確保することに繋がり、次世代にわさび生産を継承していくための持続可能性の鍵にもなります。 ① 伊豆市では、わさび生産者と協議して、計画的にモノレールの整備を行おうとしていると承知していますが、協議と計画・整備の状況はどうなっていますか。 ② 国・県の制度を利用することで、モノレールの整備が出来るようになっていきます。利用には必要な手続きがあると思いますが、伊豆市においては、制度の利用申請等、どのようにすすめられていますか。	市 長
5. 市職員の定着率	市職員の採用が難しい中、中途退職者が少なからずいる、と感じます。一般的な傾向として、公務員離れ、転職しやすい環境があると思いますが、離職者について、当市の傾向を把握し、対策を講じていますか。定着率向上、中途退職者ゼロを目指しませんか。	市 長
6. 今後の経常経費支払いの資金繰り	大型事業が終わり、補助金や交付金が多くなると、人件費を含めた経常経費の支払いが大変になるのではないかと心配の声が聞かれます。入金時期と支払い期限の調整など課題がないのか、又、検証の必要性はないのか、会計管理の観点から伺います。	市 長



発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 6 年 11 月 12 日

伊豆市議会議長 様

議席番号 12 議員名 小長谷順二

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (一括・分割) ※発言予定時間 (20分・30分) ②質疑 ③討論 (反対・賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
1. 合併特例債 の活用状況と 新たな財源に ついて	平成 30 年 4 月に「東日本大震災等に伴う合併市町村に係る地方債の特例に関する法律の一部を改正する法律」が施行され、被災地以外の自治体については、合併特例債の発行可能期間が「合併年度及びそれに続く 15 年」から「合併年度及びそれに続く 20 年」に延長され当市は今年度末で期限を迎えます。 2004 年に修善寺、土肥、天城湯ヶ島、中伊豆の 4 町が合併して誕生した当市は市制施行 20 周年を迎え、これまで合併特例債を活用して新市建設整備を進めてきました。一方で旧 4 町から引き継いだ公共施設は老朽化が進んで修繕が避けられず、人口の減少が続く市の財政の負担になりつつあります。 持続成長する「伊豆市の未来」に向かい、歩を進めていくためには市政運営 20 年の検証と新たな財源の確保が必要となるので次の質問をします。 ① 合併特例債の発行額 ② 合併特例債充当事業とその金額 ③ 返済スケジュール ④ 今後の有利な起債 ⑤ 新たな財源の確保 ⑥ 公共施設の再配置計画の進捗 ⑦ 将来負担比率の予測	市 長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
2. 伊豆半島広域の観光・防災の連携について	伊豆半島の7市6町の首長会議が10月28日、伊豆市で開かれ、能登半島地震を受けて地理的条件が似ている伊豆半島に新たな広域防災協議会を設立することで合意されました。 市長は能登半島地震を踏まえ、伊豆半島の防災は各自治体が連携し国交省や自衛隊など防災に関わる関係機関にも参画していただき、今後の計画を策定していきたいと述べています。 8月に南海トラフ地震臨時情報が初めて発表されたことを受け9月18日、土肥支所で地域住民や観光事業者ら約40人との意見交換を行いました。大きな混乱はなかったが、宿泊施設では約1割のキャンセルがあったとの報告を受け、海水浴の営業や観光客に向けた発信の在り方について伊豆半島全体の統一基準を求める意見があり、伊豆半島広域の観光と防災の連携に向けた取り組みが急務です。 9月の一般質問では観光防災を推し進めている当市の状況について伺いましたが今回は、伊豆半島に新たな広域防災協議会を設立する運びとなったことから、協議会発足の経緯と今後の展開や能登半島地震を教訓としたインフラ整備の課題等について伺います。	市 長



議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 6 年 11 月 15 日

伊豆市議会議長 様

議席番号 2 議員名 飯田 大

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問(一括 ・ 分割) ※発言予定時間 (20 分) ・ 30 分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
市内給食センター再編に伴う学校給食施策について	第2次伊豆市総合計画での、基本構想後期基本計画が作成されています。人口減少対策は最大の課題であり、次代を担う子どもたちの教育環境を、より充実させることが必須となります。その一環として教養、運動、健康の基礎となる栄養管理、とりわけ学校給食の意義は大変重要です。令和5年6月の一般質問において給食運営及び、児童生徒への食育について、実態をご教示いただきました。 しかし、昨今の異常気象や円安の影響もあり、食材料費を含め高騰が報じられています。給食の献立内容や栄養摂取にも影響を及ぼしかねないと思われます。来年度から修善寺中学校の給食調理室が閉鎖され、天城・中伊豆の給食センター2ヶ所で市内小中学校の調理業務が行われます。市政20周年記念事業でのふるさと給食や、学校給食地元栽培米活用事業など、特徴のある給食内容が盛り込まれていますが、さらに変わっていくのか期待をしています。 令和6年6月の文科省調査の結果では、小中学校の給食費は、自治体の約3割が完全無償化していることが報じられています。小学校のみの実施は約1割となっており、合わせて4割となります。財源の確保が課題となるとしていますが、文科省はこうした調査結果を受け、一律で無償化すべきか、引き続き検討する方針とのことです。このような背景のもと、伊豆市内の児童生徒の給食について、以下	市 長 教育長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	のとおり質問をいたします。 ① 児童又は生徒ひとり当たりの摂取基準による配食量は、どうされていますか。 ② 食材料の高騰に対し、賄材料費(保護者負担)の算出はどのようにされていますか。 ③ 給食材料で地元の農業・水産業・食品加工業と結びつきはありますか。 ④ 小中学校の給食無償化について考えをお伺いします。	



議長許可

発 言 通 告 書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和 6年11月15日

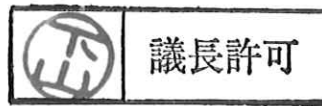
伊豆市議会議長 様

議席番号 8 議員名 波多野 靖明

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問 (<u>一括</u> ・ 分割) ※発言予定時間 (<u>20分</u> ・ 30分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
1. 大学生の通学補助について	近隣の市町の一部では、市内または町内から大学に通学する学生に対して、新幹線代金の一部を補助する制度を設けている例が見られます。また、支援している市町の考え方として地元から通学する大学生に対して通学費用の一部補助を行うことで、保護者の経済的負担を軽減し、将来的に働き世代となる若者を、その他の市町への人口流出を防ぐことができる仕組みと考えているようです。 通学費補助として月に上限1万円または2万円の補助が設定されている例があり、伊豆市も同様の取り組みを検討し、若者への通学補助が実現できないかと考えております。 この通学費の補助制度は、将来世代への投資であり、また大学通学を理由に、大学の近隣市町への転居を防ぐ効果も期待できると考えます。政策の一つとして伊豆市の発展にふさわしいものと考えますがいかがでしょうか。	市 長
2. 伊豆市における環境配慮型リフォーム助成事業の導入について	伊豆の国市では、商工会が行政の支援を受けて「環境配慮型リフォーム助成事業」を実施していると聞きます。 この事業は、市内の業者を利用して環境に配慮したリフォームをすることで市民または市内業者が助成金を受け取れる事業です。 具体的には、対象工事金額の20%を助成し、住宅の場合は商品券、店舗・事業所の場合は現金で支給されます。	市 長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	この制度により、市民の経済的負担の軽減と環境保全、市民の生活支援が期待できると考えます。 伊豆市においても、同様の取り組みを導入することで、伊豆市民の経済的負担を軽減することはもちろんのこと、地元業者の利用促進による地域経済の活性化、そして環境に配慮した住環境の整備を促進するものです。さらには、地元への愛着を持ち、定住を促進する効果も期待できると思われます。 伊豆市においても、地域の特性を踏まえた独自の助成制度を導入することで、持続可能なまちづくりに定着するものと考えますがいかがでしょうか。	



発 言 通 告 書

下記のとおり発言したいので通告します。

令和 6 年 11 月 13 日

伊豆市議会議長 様

議席番号 1 議員名 尾垣 和則

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①(一般質問)(一括・分割) ※発言予定時間 (20分) ・ 30分) ②質疑 ③討論 (反対 ・ 賛成) ④その他 ()	
発 言 の 要 旨		答 弁 を 求める者
件 名	内 容	
聴覚補助器等の 積極的な活用への 支援について	今日、社会の高齢化の進行に伴い、難聴の方も年々増加しています。実際、高齢者が難聴になると、人や社会とのコミュニケーションを避けがちになり、社会的に孤立する可能性も高くなるといわれています。 また、難聴になると、耳から脳に伝達される情報量は、極端に少なくなり、認知症発症のリスクが高まるといわれています。この難聴対策として聴覚補助器の活用が有効であります。 聴覚補助器には、マイクで収集した音を増幅して外耳道に送る気導補聴器の他、骨導聴力を活用する骨導補聴器や、耳の軟骨を振動させて音を伝える軟骨伝導補聴器などがあります。 高齢化が進む中で、高齢者が社会の一員として、末長く動き働ける地域を築くために、聴力の低下した高齢者が、自分に合った聴覚補助器を選択し、適切に活用できる環境の整備は、大変に重要なことであると思います。 そこで、次の質問をします。 ① 高齢者が聴覚補助器を適切に選択できる環境の整備について、まず、市役所窓口及び地域の社会福祉協議会や福祉施設との連携のもと、聴覚補助器を必要とする人々への情報提供の機会や、補聴器等のお試し利用ができる	市長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
	場所の整備等、高齢者が自分に合った聴覚補助器を、適切に選択できる環境を整備すべきと考えますが、見解をお聞かせください。 ② 聴覚補助器の購入費用の助成制度の創設について、埼玉県川口市では、聴力の低下により、周りの人とのコミュニケーションがとりにくい等、生活に支障が生じている高齢者の方が補聴器を利用することで、生活の質の向上や社会参加の機会を増やし、住み慣れた地域で健やかにいきいきと自分らしく暮らせるよう、補聴器購入費の一部を補助する制度を創設しました。 補助の対象は、市内に住所を有し居住する満 65 歳以上の方で、本人が市民税非課税または生活保護受給世帯で、聴覚障害による身体障害者手帳の交付対象とならない方で、耳鼻咽喉科の医師から補聴器が必要と認められた方となっています。原則、中等度難聴程度（両耳の聴力レベル 40 dB～70 dB未満）の方が対象です。 補助の内容は、20,000 円を上限として、1 人 1 回となっており、購入に要した費用が 20,000 円に満たない場合はその額を補助するものとしています。受付期間は、令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日までで、申請件数が予算上限に達した場合は、期間内であっても受付を終了するとしています。 また近隣では伊豆の国市では既に補助制度がスタートしていると聞いております。 そこで、伊豆市においても、聴力の低下に悩む高齢者が、医師や専門家の助言のもとで、自分に合った補聴器を積極的に活用できる環境を整えるために、購入の費用を助成する制度の創設は、大変に有意義なことであると思いますが、見解をお聞かせください。	



発言通告書



下記のとおり発言したいので通告します。

令和6年11月14日

伊豆市議会議長 様

議席番号 13 議員名 森 良雄

No. 1

発言の種別 (○で囲む)	①一般質問(①一括・分割) ※発言予定時間(20分・30分) ②質疑 ③討論(反対・賛成) ④その他()	
発言の要旨		答弁を 求める者
件名	内容	
1. 戸籍に関する システムの電算セ ンターへ移管につ いて	戸籍に関するシステムについて、予算書を見ると、 2款3項1目 2 戸籍住民基本台帳事務事業 12-41 戸籍総合システム保守委託 12-43 戸籍情報システム回収業務委託 13-40 戸籍総合システム借上げ これらの予算項目は、伊豆市の電算機で処理しているものとみられます。この3つの業務だけでも年間2,000万円近くの予算が伊豆市の電算機で使われています。 三島市、伊豆市及び伊豆の国市電算センター協議会(以下「三市の電算センター」といいます。)の事業68システム一覧を見ると、No.5戸籍、No.6戸籍民刑 No.7戸籍副本データ管理システムとなっています。 質問します。 ① 伊豆市の2款3項1目の予算のシステムとの違いは何か。 ② 三市の電算センターへ移管するつもりはありませんか。 ③ 移管できない理由があるのですか。 ④ 指摘した予算書の3つのシステムは、三市の電算センターのシステムに違いがありますか。	市長
2. 狩野川の水質 について	狩野川の水質の悪化は目を覆うばかりです。市長は、修善寺橋から狩野川をのぞいたことがありますか。狩野川は	市長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
3. トレイルランニングレースについて	泡を吹いて流れています。泡を見ていなければ、ぜひ見てください。先日、大見川でも小川橋の上流で泡を吹いて流れているのを目撃しました。修善寺橋からのぞいた狩野川は、とても清流といえるものではありません。伊豆市には「清流だってよ」などと清流を理解できない者もいます。しかし、狩野川は清流でなければなりません。狩野川は、上流部での水質が悪化しています。 そのためには、狩野川の支流も含めて水質を調べる必要があります。過去には、中伊豆地区のパールタウンの排水処理を問題にし、一般質問で取り上げた議員がいました。 狩野川の清流を取り戻すため、市長の見解を伺います。 ① 狩野川の清流を取り戻し、守りませんか。 ② 柿木川では環境基準の水質を調べているようですが、狩野川の泡の水質や正体を知る必要があると思いませんか。 ③ 狩野川とその水系の水質調査をしていますか。 今年も天城山でトレイルランニングレースが行われます。トレイルランニングレースは自然破壊のレースです。トレイルランニングレースは迷惑レースです。自然破壊が起きています。一般のハイカーとトラブルが発生しており、オーバーユースです。国立公園の中を、1,500 人もの人が走ります。 質問します。 ① レースへの伊豆市の関与はどのようなものですか。 ② 市職員の参加は何人ですか。 ③ 機材の提供はどのようなものですか。 ④ 狭い山間部のコースでのトラブルは考えられませんか。	市長

件 名	内 容	答 弁 を 求める者
4. 伊豆中学校の自転車通学路の整備について	伊豆中学校開校後の通学路について、未だ、通学方法の詳細は発表されていません。自転車通学を希望する生徒もいますが、県道の旧修善寺町と旧中伊豆町の境界付近での自転車通学は、危険です。現役時代にそこを自転車で通勤していた者としては、とても勧めることはできません。 質問します。 ① 私は県道で交通事故を経験していますが、交通安全対策はどうなっていますか。 ② バス通学の詳細はいつわかりますか。 ③ 専用の自転車通学路をつくりませんか。	市長 教育長
5. 道路整備の補修計画について	伊豆市の道路はまともな道路がありません。国道も県道も市道もガタガタです。補修計画をつくりませんか。	市長